

迎古夢旅 4648 : カナダ横断・プリンスエドワード島 P105

アメリカ合衆国から、カナダ、ケベックへ。

セントポールから、キャンベルトン泊、そして、プリンスエドワード島へ向けて。

PEI・ハンプトンに宿泊。現地での旅日記・**当時のメモの記録**。

- セントポール、午前4時スタート。日の出のショットを期待。
- 白亜のレストラン、モーニングコーヒーが素晴らしい。
- 英語の添付メニューを見ると、ほっとする。
どうもフランス語は、発音が難しく、伝達ができないで四苦八苦。
- 写真を撮るにも、平凡すぎて、天気が良くなっても、期待できない。
予測を、勘で、進路変更。フェリーで対岸へ。
- 人口が多くなり、マスでとらえられて、個人は無視。
個人主義が叫ばれるのは、個人の権利が、薄くなっているためか。

- 大型スーパーが、郊外に5～6軒できる。高速道路ができる。
街は、すたれていく。人も集まらない。あわれを感じる。日本も同じようになるのか。
- 歴史、文明と発展、いろいろな場所を探訪させてもらって、
歴史変遷、戦争と平和、都会と田舎、自然と不自然。
- 奥の細道の松尾芭蕉、帰国したら、読んでみたくなった。
文章の裏にある、何かを感じられるかもしれない。
- 私の身体は、中身まで日本人。誇りに思い、感謝する。
乾いた生活でなく、うるおいが、日本にはある。
- スペイン、オランダ、イギリス、フランス、アメリカ・・・ 諸外国の攻勢に、
負けていたらと思うと、平和を大切にしたいと思う。

- 外国生活もと思った時期もあるものの、身の回りの日本を大切に・・・ 痛感。
- 伝統、歴史、大切に育てていきたい。
外国の写真と並行して、日本を勉強したい。再発見したい。

**等々、当時 55 歳、50 歳から、ビジネス経営者から、アーティストへの
180 度の、大変身の夢挑戦。先行きが見えなかったが、夢挑戦。**

**旅記録では、次の日、キャンベルトンから、プリンスエドワード島へ向けて出発。
結果、プリンスエドワード島・ハンプトンに宿泊。**

思いつくままの当時の記録。こんなことを考えていたのだとわかる。
世間も、人も変わる。恥という言葉は死語かもしれない。私は、昔人間なので、
また、興味深いので、恥ずかしいが、掲載。
しかし、反省点も見つかる。今からが難しいのかもしれないが、
独りよがりの、自分への鼓舞。アンのように、前向きに頑張りたい、と再確認。

- メモには、朝食に必要なフランス語のお勉強を、少し、しましょう。
必要な言葉を書き出して、復唱、暗唱。間違ってもいいから、ヘジテイトしないで・・・
- 私は、平均的に、20%、60%、20%の方式を使う。
勉強する人 20%、そこそこ 60%、しない人 20%。
国を考える人 20%、そこそこ 60%、そうでない人 20%。
- このパーセンテージは、30%、40%、30%もある。10-80-10、20-70-10、etc
- 自ら勉強する人、言えば、影響されれば勉強する人、
言われてもしない人、言われてもできない人、
- 明るい人、中から明るい人、明るくなれない人、暗い人、人も、街もいろいろ。
輝いている人もいた。
- この旅を通じて、日本、人生、老い、松尾芭蕉、芸道一筋、小野田少尉、
画家、詩人、小説家、・・・ その思いが頭に浮かぶ。
- **私の人生、自ら構築していける条件下にある。これは大変幸せなことであり、
なんとなく、そうになっていたことに対して、神に感謝。
大切にしていかななくてはと再確認。時間は、誰でも平等に与えられている。
問題は、時間の使い方。**
- 高速でのスピード違反、街中でのスピード違反や駐車違反、
警察の交通取り締まりは、厳しくやっているようで、毎朝、右側通行、安全を再確認。
- 今回の出張目的、取材目標、納得のいく取材。数量より内容を重視。
- **自分にしかできない、夢の実現。情熱を注入した写真が残せるか否か全力投球。
汗かく、恥かく、子供心にかえって、そうした選択もいいのではないか、おつりの人生。
自分から、変えないと、何も変わらない。アンには勝てないが、負けたくない。**

調子に乗って、この日のメモを、ありのままに。これも一興。

- 落ち着いて被写体を観る。魅力的な被写体を見つけられるか否か、全知全能をかけて、後悔のない、旅であってほしい。
- 横着でなく、キャンバスに絵を描く、画家以上の姿勢と心構えで、写真を撮る。実践しているか。知っていることと、できることは違う。能力があるか、ないかより、始めなければ始まらない。種まきと、発芽率、低くて結構。大いに、失敗もいいのではないか。
- 画家、写真家の中にも、ただ写真を撮るだけの人 60%、本当に撮っている人 20%、撮っているふりをしている人 20%、ビジネスマンの考え方が、抜けきらないのは問題。
- 写真集、カレンダー、絵はがき、個展、雑誌、挿し絵・・・
オリジナルの個性は、どこにあるのか。できれば、**オンリーワン**を目指したい。
できればと思っている気持ちが、弱いのではないか。
- TAKE と MAKE。瞬間の中に、アクチュアリティを求めるか、形の追求と、質感の把握のうちに、内面的なリアリティを目指すのか。

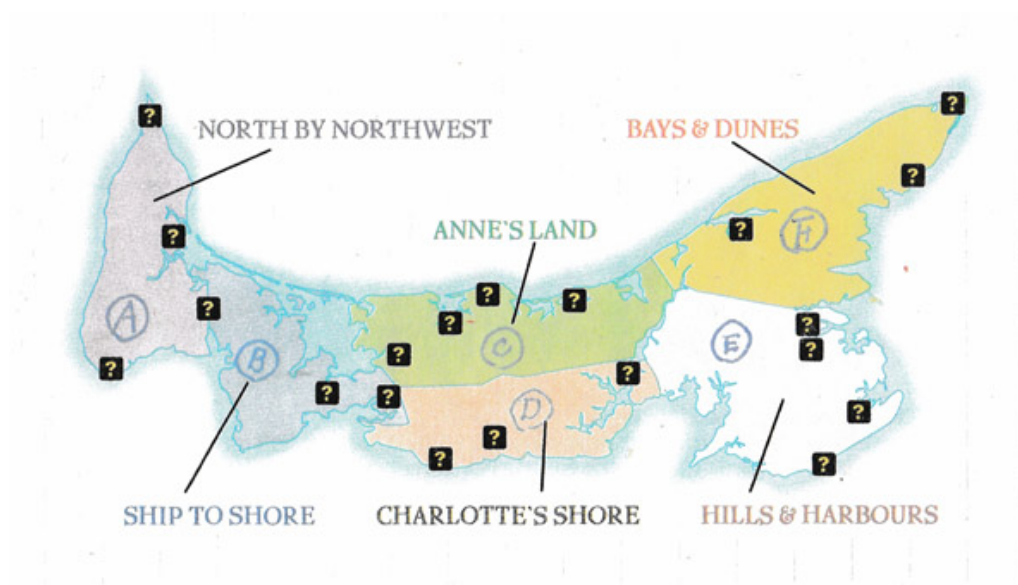
いろいろ、理屈っぽいことを書いている。ビジネスマンの^{さが}性が抜けきらない。

脱皮するか、できるか、悩みの日々が続く。どう脱皮するか。

次に進むために。そこで、登場するのが、「継続は力なり」続けるしか選択肢はない。

- モンクトンへの道中、給油、休憩もあり、Richibucto? の港町に立ち寄る。サンドイッチを買い、ひと休み。
- アンティークのお店が面白く、何度も立ち寄る。古道具屋さんだが、見るだけで楽しく、時間がかかる。
- 人生の試算表（貸借対照表）作成のススメ。意識するか、しないかで、後悔が、少なくて済む。すなわち、前向きに生きる。
- 本を出版の時、勘定科目とコメント、記入用紙など、具体的チェックノートを添付。
- リンゴを、何種類も試食したが、スーパーマーケットでの購入、美味しくない。皮や果肉、ダメである。

- 何につけても、ヨーロッパで食べたほうがよかったのか、何についても大味で、デリカシーがない。
- 思い切って、プリンスエドワード島へフェリーで、土曜日であり、午後6時頃になっていたので、宿泊が心配だった。
- **ボーデン港から上陸** (ウッドアイランズ)。野中の一軒、モーターイン (ハンプトン)
- **独特の赤土と、緑の野、風景、パッチワーク、** 素敵な予感を、させてくれる。
- 夕食に、レストランへ。シーフードスープが、美味しくて、お代わりをした。シーフード、**チャウダー**である。今までで、最高。
- プリンスエドワード**ポテト、ロブスター、ムール貝、オイスター**が特産。**このスープには、すべてがブレンドされていた。**



こうした、箇条書きの旅記録が、残っている。内容も何を思っか、一貫性も何もない。当時、そう思ったのだろう。失敗の画像も多いが、記録した画像の数は、半端でない。このメモも、画像も、役立っている。